令和6年2月9日

2年 組 番 氏名 ()班 担当()先生

一生()		<i>め</i> なに日分りこと	こして、分観点で、		○在する。(Y-7//- 	「 (こも記入りる)	カート゛
レベル 観点		1	2	3	4	5	番号
課題の設定	基準	問いを出せない。	研究の価値を十分 に理解していない が、問いは設定で きている。 (具体的な問いが 持てない。) (仮説なし)	研究の価値を個人 レベルで理解してい る。問いから仮説を 設定できる。	他者に研究の価値 を説明できる。見通 しのある問いを立て られている。	周囲を納得させる 研究の価値(個人 の価値を超えたも の)を説明できる。 見通しのある問い を立てられている。 (検証できる絞り込 んだ仮説)	(1)
調査 研究の 立案と 実施	基準	抽象的な計画にと どまり、実施が困難 である。	計画は立てているが、ただ、それに従い実験・調査している。	自分の計画の不十分な点に自ら気づく。回数をこなし、計画を変更、見直しできる。(具体性・精度・パラメーターの観点で)	目的を明確にした計画を立て、諸条件を考慮に入れながら実験・調査している。	実践から新たな課題を見出し、必要な知識・技能を自ら得て次の計画に活かせる。	(2)
情報 収集と 情報の 評価	基準	データの記録はしているが、過不足があり、整理もできていない。また、データの活用に至っていない。	集めたデータをまと めているが過不足 があり再現性がと ぼしい。	集めたデータが妥 当であることを高校 生が持っている知 識で筋道立てて解 釈することができ る。	集めたデータを先 行研究と比較した り、専門用語を用い て筋道立てて解釈 している。誤差につ いても検討してい る。	データから新たな 知見を生み出し次 の発展に向けての 大きな発見に繋が った。	(3)
結果 からの 考察	基準	論理的な考察がで きていない。	論理的な考察が不 十分である。	論理的な考察がされている。	論理的な考察ができており、先行研究との比較検討がなされ次の課題発見ができている。	論理的な考察ができており、創造性のある提案ができている。	(4)
発表	基準	研究に関する事実 (調べた事・実験結 果)を述べる。	研究に関するいくつかの事実を研究の流れを意識しながら伝える。	情報の取捨選択を し、概念図・グラフ・ 模型などを用いて、 研究内容を論理的 に伝える。	情報の取捨選択をし、適切な概念図・グラフ・模型などを用いて研究内聴理的に且つ時間心を持ってもらえるように工夫適切に応答することができる。	情報の取捨選択をし、適切な概念図・グラフ・模型などを用いて研究内聴発の連理的に且つ聴衆の理解を深められるよう工夫して伝え、議論することができる。	(5)
意欲・ 関心・ 態度	基準	研究や調査に対し て無関心で、グル ープ活動へ関わろ うとしない。	研究や調査に対して消極的で、グループ内で決まった役割や課題に対しての取り組みも不十分である。	研究や調査に取り 組み、グループ内 で決められた役割 は最後まで果た す。	研究や調査に対して興味を持ち、グループでの役割を進んで受け持とうとする。	研究や調査を、時間を厭わずに、自ら進んで行う。グループ活動でも積極的に発言をし、中心的な役割を担っている。	(6)

アンケート

以下の質問で、適当なもの1つに \bigcirc をし、マークカード番号(7)~(11)も記入をおこなって下さい。自由記述についても具体的に書いて下さい。

●「神高探究」の目的について

目的1:自ら選択したテーマを探究する活動を通じて、探究の方法、考え方、知識等を身につけるとともに、

それらを活用して新たな知見を得る。

目的2:グループ活動を通して、他者との協働性を養い、能動的に行動できるようにする。

目的3:発表会や報告会などを通して、探究内容や結果について外部へ発信できるプレゼンテーション能力を身に

つける。

今年度の「神高探究」の目的は上記でした。これについて、年度初め(4月)のあなたと比較して、どの程度高められたか(身につけられたか)回答して下さい。自由記述欄には、回答を補足するような具体的な経験・エピソードがあれば書いて下さい。

- (7) 「目的1」について
 - ① まったく高められなかった ② あまり高められなかった ③ どちらとも言えない ④ 高められた ⑤ 十分高められた
- (8) 「目的2」 について
 - ① まったく高められなかった ② あまり高められなかった ③ どちらとも言えない ④ 高められた ⑤ 十分高められた
- (9) 「目的3」について
 - ① まったく高められなかった ② あまり高められなかった ③ どちらとも言えない ④ 高められた ⑤ 十分高められた

ſ	自由記述		

●探究の手法について

今年度は、右図のような $@\sim$ @0 R-PDCA サイクルを意識して活動をしてもらいました。これについて、

(10) ⑩~⑦で最も難しかった活動を1つ回答(マークカードにも記入) し、その理由や場面を自由記述欄に書いて下さい。

回答番号	()	
自由記述			

●探3	究のプロセス R-PDCAサイクル	
R (R	Research:訓查) ②調査	
	· 興味、陽心 · 情報心收集、先行研究	
	①課題の設定 ⑦研究のまとめ(発表)	
	・研究テーマの決定 ・リサーチクエスチョンの設定 ・発表→他者との共有	
P (Plan:	②仮説の設定	C (Check
計画)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	:評価)
	③調査・実験 5調査・実験の目標	
	の計画・準備は達成されたか	
	手法の習得 ⇔結果のまとめ ・データは適切に得られたか? も 観察	
文献	嘘、アンケートル症 ④調査・実験の実施 _{・研究ノート→記録(側}	M. STHE)
	計画像の作成 (株的なが活動 D (Do:実施) 「問題点、改善点、新たが	契準備

(11) ⑩~⑦で最も楽しかった活動を1つ回答(マークカードにも記入)し、その理由や場面を自由記述欄に書いて下さい。

回答番号(自由記述)
自由記述	

今年度の	「神高探究Ⅱ」	の感想を以下に書いて下さい。	(自由記述)
フィースツ			

目由記述	